

# ブロックチェーン／リーガルテックは著作権管理 を変えるか？

2019年1月10日

@シンポジウム「著作権延長後の世界で私たちは何をすべきか」

## 【MESSAGE】

- ①「法」に対する失望
- ②「技術」は「法」を代替する／エンパワメントする
- ③ブロックチェーンは著作権管理を変える

弁護士／Creative Commons Japan理事  
永井幸輔

Twitter: @hanatochill

Mail: hanatochill@gmail.com

## ①「法」に対する失望

- 2010年、国内議論の末、保護期間延長の見送り
  - 死蔵作品の増加、ビジネス・二次創作の停滞
  - 国際収支悪化と民間負担増大
  - 遺族の収入増加も僅か
- 2018年12月30日、保護期間70年時代へ
  - EU-EPAの保護期間延長への大枠合意を事後公表
  - TPP11での条約上の義務もなく、国際交渉上のメリットも不明のまま、著作権延長を維持する  
TPP11整備法が成立

## ②「技術」は「法」を代替する／エンパワメントする

- **ローレンス・レッシグ「CODE 2.0」**

4つの規制態様：法／規範／市場／アーキテクチャ

- **リーガル・テック ex.「押印不在」の克服**

- **スマート・コントラクト ex.自動販売機**

- **クリエイティブ・コモンズ・ライセンス**

ライセンスの3重構造：利用者、法律家、コンピュータ向け



**コモンズ証**

誰にでも分かる著作権表示



**ライセンス**

現行の著作権法のもとで許諾内容を法的に担保するライセンス条項



**メタデータ**

RDF構文にもとづいたメタデータ体系

# ③ブロックチェーンは著作権管理を変える

## ・ ブロックチェーンにできそうなこと

データベース、 データ利用	簡単な登録、改ざんが困難、高い透明性のDB
	許諾・決済・分配の即時化・透明化
	配信実績の透明化
流通の拡大	零細な作品／アマチュアクリエイターの作品の流通
	小額、条件付きなど柔軟な分配レートの設定
	N次利用のツリーの可視化、原著作者・二次著作者間の利益分配
利用方法の 拡大	データのフィジカルなメディア（CD等）のようなデータの売買・貸し借り
	利用権をトークン（≒チケット）化して売買・貸し借り
その他	違法利用対策（不当利用のブロック、不当利用者の特定・追跡等）
	独自の仮想通貨の導入によるエコノミー形成

# ③ブロックチェーンは著作権管理を変える

## • 実例

- Ujo Music:  
アーティスト側への100%送金 & 自動分配
- Binded :  
権利登録、タイムスタンプ、不正利用の報告
- KodakOne、Sportify、日本では、NTTサービスエボリューション研究所、ALIS、Startbahnなど
- 官庁等の公的団体や著作権管理事業者等も導入し得るか



## • 最後に